

日時：令和6年3月21日（木）14時00分～15時30分

場所：周南市地方卸売市場 2階会議室（水素学習室）

出席者：審議会委員10名

事務局3名

傍聴者：なし

●開会

●産業振興部長挨拶

●出席状況報告

【事務局】

本日の出席者は、審議会委員10名の出席であり、周南市地方卸売市場運営審議会規則第5条第2項の規定にある、委員の過半数の出席を満たしていますので、会議が成立しておりますことを報告いたします。

●議題

【会長】

「議題1 地方卸売市場の現況」について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

（地方卸売市場（青果・花き）の現況について説明）

【会長】

事務局からの説明について、質問等がございましたら、お願いします。

（質疑なし）

【会長】

質問が無いようですので、「議題2 地方卸売市場にかかる計画等について」について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

（経営戦略及び施設分類別計画について説明）

【会長】

事務局からの説明について、質問等がございましたら、お願いします。

【委員】

先程の LED 化の件ですけど、建物全部を考えておられるのか。外にあるトイレだけとか、関連事業のところも変えていくのか。年度で変えていくのか。

【事務局】

そうです。今、市の公共施設全体も LED 化推進事業を進めようとしています。この中で、管交換、一番簡易な方法です。基盤は別にして。リースで 10 年。その間をリースでやりますから余計な経費もかかりませんし、そうした形を進めていこうという動きがあります。

【委員】

駐車場にあるトイレも LED に変えるということですか。

【事務局】

そうです。ただ市の施設全体を変えていきますので、どういう順番でどのくらいのスピードで、これはまだ分かりません。

【委員】

全部を変える予定であるということですね。分かりました。ありがとうございます。

【委員】

決算に関わることですが、この「市場の感謝祭」の開催費というのは、何でしょうか。「さかなまつり」の開催事業費については掲載されているのですけれども。去年でしたかね。

【事務局】

これは令和 4 年度に水産物市場で「さかなまつり」というのを開催しました。その記載でして、この「市場の感謝祭」は、基本は市の事業を活用して、花卉の商業組合さんが主催をされて、これに青果の商業組合さん、そうした団体がタイアップしてやっていかれたということで、直接私どもの特別会計から補助金を出したとか交付金を出したとかではなくて、市で持っている事業でございます。

これは結局、コロナ渦で花屋さんとか、厳しい状況にあって、それを支援していくということで事業をしてきました。今年もそうした形で組合等の消費拡大や消費喚起、そうしたものの活性化の補助事業がありましたので、こちらに申請して開催したということでございます。

【委員】

PR 次第では、集客数をもっと伸ばすこともできたのでは、という気もしますが、それは目指してない、あくまで消費喚起が目的であって、個々単体で利益を上げようというものではないということですか。

【事務局】

今後どういうふうに取り組んでいくかということになると思います。例えば、地場にある

もの、そうしたものをPRして、あるいはブラッシュアップして出していくということになれば、これは販路の拡大に繋がっていくと思います。

卸さんや仲卸さんが新鮮なものを出してあげれば、主婦の方が来られるので、消費喚起にはなるでしょうし、そうしたものを工夫してやっていくということが、市場の活性化にもなります。紐解いていくと卸さんや仲卸さん、またはそうした団体さん、小さい花屋さん、八百屋さんの組合が集まってそういうことをやれば、団体の少しは支援に結びついていくと思います。

ただ、やはり市場というものを知ってもらう。市場からそういう情報を出したい。そういう意味では、プレオープンした市場の駅、これも地場の野菜や魚や花を紹介しながら、それを見ってもらう、あるいは買ってもらうこともありますが、もちろん食堂施設でするので食べてもらう、そうしたことが口コミで市内に広がって行って、何かブランドになるようなもの、そうしたものが出来たらいいかなということで、どこをどういうふうに育てるか、どういうふうにつかというのは、なかなか難しいのですが、ただ今までこうした取り組みにチャレンジしてませんでしたので、新しい切り口でここから情報を出していきたい、と考えています。

そのことによって例えば、地場のものがもう一回目の目をみるとか、生産者さんが頑張ってみようとか、生産者さんを主に支援できる一つの景気づけになればいいかなと。

そういう意味も含めて、ただ新鮮なものを安く提供するというのではなくして、地場のものをPRし掘り起こしていき、もちろん買っていただくことで販路も広げていき、バイヤーさんと呼べるようなコーナーがあったりとか、そういうものによって変わっていく。ただこれは行政が一番下手くそな部分ですから、これは卸さん、仲卸さんで、それは頑張ってもらおう。ある意味意識付けです。

【委員】

私が一番懸念していたのは、イベントをやって何も残らず、業者さんも行政もどっちも疲弊していくというのが一番よくないなと思っています。そういう例もいくつか見てきたので。市場の駅が出来たのはとてもいいことで、市場が休んでる昼間の時間帯とか賑わいが少し見られない時も、ここの市場には広い駐車場があるので、業者さんに迷惑をかけないとか、というのが一点。

おっしゃったような周南市卸売市場としてのブランドが、こういうふうにはいいものがあるんですよとか積極的にPRしてくれれば、使用料収入にも繋がっていくのかなというふうに思いますので、是非その横の連携と発信をうまくやっていただければと思いました。

【事務局】

市場の駅は、元々が食堂棟ですので、基本は小売りだけは出来ませんから、イートイン形式とします。地元のものを見るとか、知る、食べる、楽しむ場になればいいのですけれども。また、市場の駅は、大兵食品さんという漁師さんが作られた会社が運営しています。その会社を作ったのが何かというと、「しゅうなんブランド」の周防ハモの加工を手がけ、これが県と市の6次産業化の補助事業に認められて、加工場を水産物市場に作られました。今度はその販路を広げていくということで、イベントとかで販売されていたのですけれども、やはり一定のところでそれが手に入る所を探しておられて、たまたまここへ来られて、ここで場所的にどうなのかということになったんですけれども、ここを借りてその販路にしていきたいという話があって、私は水産物市場長も兼ねていますので、水産物市場の事業ではなくし

て、水産の振興ということで、同じ水産物市場の中に加工所があって、水産物市場と関係があるなら、地方卸売市場とも一緒になって、ここをひとつの拠点にして、見る知る食べる、この構成で行こうじゃないかと。そこでせっかくここですから、魚があるのなら青果を入れようと、青果があれば花も、この3つがここで手に入る訳です。

【委員】

「市場の感謝祭」の、さっきおっしゃられましたけれども、いつくらいに告知しようとかか、例えばどういうことをしようとかかというのは、集まりとか会議みたいなのがあるのかなと思ひまして。

【事務局】

これは、去年は5年ぶりの開催でして、正直、行政主導で一気にやりました。というのは結局、こういうのをやっていくという素地を作っていく。今からは市場関係者の中で協議会を作ってやっていこう。ただ5年前には任意の形でそれが出来ていたんですけども、これを正式に作りたいたいという思いがあるんです。

ただ、行政が引っ張っていくことには限度がありますし、それというのは先程にもありましたように、行政もくたびれます。行政の考え方を押し付けるイベントでは長続きしませんから、やはりそこで働く皆さんが手を挙げて手を携えて頑張っていくというのが必要なので。

また来年度になるのですが、実は市場には自治会というのがあるのです。自治会というのは単純に市場の環境を良くしようというものになるのですけれども、そこにもう1つ、何か自治会の活性化部会みたいな、こういうものを作って、そこでゼロから組み上げていく、そういうふうな体制がいいんじゃないかと。

【委員】

水産が入るとか、あとは今現在単純ですけども、一般の方にやるのに、費用の一部を支援しますみたいな補助を県か市がやっていますので、ああいうのに取り組むことも大事なことかと思ひます。そういう話も出来たらと思ひます。

【事務局】

それは、話をする中で、例えば管理事務所の方へいただいたら、こういうふうなご意見をいただきましたよとか、今日のような審議会でもこうした意見が出ましたので、次にそういう組織を作れば、こういうふうなこともできるという可能性を検討していく題材になってくると思ひます。

【委員】

僕は久しぶりだったから。ある程度はそちらの方が動いてやったということですね。分かりました。

【事務局】

ご要望はいただきました。たくさん。ぜひ来年もやってほしいと。

【委員】

それはいいことだと思いますし、市場がどういうふうになっているかというのを一般の方が見るのは大事だと思いますので。それから、告知がどうだったか。どのくらいで告知をして、例えばどこから始めてとか、どういう媒体でしたのかとか。

【事務局】

告知はですね、11月26日にやるので、下話はこの前の時からあったのですが。やるといねと任意で話をしながらどのように積み上げていこうかという話をしたんですけども、なかなかタイミング的になくて、なかなかスタート出来なくて。

市広報という手もあるんですけども、広報でしたらどうしても枠組みがありますし、結局、実際に開催する1週間くらい前に地域情報誌の「ほっぷ」さんに載せました。

【委員】

徳山駅に貼り紙を貼るとかそういうわけでもないですか。

【事務局】

ないです。「ほっぷ」だけです。あとはSNSとか、あと1週間前くらいには報道へ投げ込みをしますから、新聞社さんが記事にしてくれたりとかということで、外のメディアをどんどん取り込んで。

【委員】

3000人来てるから、すごいと思います。この媒体だけでそれだけいくというのであれば、これをどういうふうに見るのか分からないが、これを増やしたいというのであれば、もう少し告知を駅に貼るとか一般の人が見るところに行くのか、そこまで人は入れなくてもいいんだよというのであれば、今の感じでいいと思うんですけど、そこの方向が定まらないと、さっき言ったように告知の媒体数は大事だと思いますので、やはりアピールしようと思うのであれば、単純にいっぱい見えるところに行く方がいいんだろうなと私も一般的な感じで思ったのですが。

【事務局】

もちろんそういう意見もあります。結局食べるものがないんですよね。食堂のラーメン屋と、あと中でお弁当がちょっとあったりで。キッチンカーという話もあったのですが、確かにそれをすれば人は来ます。そういうことが賑わいを作るんでしょうけども、やはり市場の潜在能力を上げていく、全国からいろいろなものが集まる、地場のいいものを出していく、そういったものを見てもらう、知ってもらうということが大事ですし。

今回、実はコロナ渦でありますけど、ベジチェックとか、あと花育という切り口からも切ってみたんですよ。そういうことで野菜を摂ることの必要性とか、そういう部分で消費拡大へ変わっていくんじゃないかと、一つのヒントになるんじゃないかと。ものすごい切り口があって、いろんな切り口でやっていかなくは。その中でも客を寄せるということは、私のわがままですけども、それには重きを置いておりません。

安くていいもの、新鮮なものを提供していくというのは、そういうことなんじゃないでし

ようか。

【委員】

そこまで振り切るんだったらそれでいいですよ。そこがぶれちゃうとこっちはいっぱい来てほしいと思ってるけれども、告知は全然してないじゃないかとぐらつくよりは。こういう考え方であればそっちに切れると思うので。

【事務局】

そこは今おっしゃる通り、今からどういうふうな切り口でやっていくか。ただ、うちの市場にとって何が一番いいのか。一過性のものでたくさん人が来て物が売れたでいいのか。これを継続的に持って行きながらブラッシュアップしていった、うち独自のイベントをしていく。そういったもので例えば年に3回も4回も出来るのであれば、よそはやっているんですけども、4回くらい。それはもうドーンとやれるのであれば、新しいものを提供していくという手もあるんですよ。だからそういうふうな工夫はしていく必要があると思うので。

【委員】

ありがとうございます。

【会長】

他にご意見はありますか。

意見がないようなので、議題3のその他にいきます。「議題3 その他」について、連絡事項等あればお願いします。

(特になし)

【会長】

それでは、本日の議題は終了となりますので、議長の任を解かさせていただき、事務局に進行をお返しします。

(議事終了)

●閉会